

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 2 区分
 【発行日】平成 18 年 11 月 2 日 (2006.11.2)

【公開番号】特開 2004-107345 (P2004-107345A)
 【公開日】平成 16 年 4 月 8 日 (2004.4.8)
 【年通号数】公開・登録公報 2004-014
 【出願番号】特願 2003-323396 (P2003-323396)
 【国際特許分類】

A 6 1 K 8/26 (2006.01)

A 6 1 Q 15/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 7/38

【手続補正書】
 【提出日】平成 18 年 9 月 15 日 (2006.9.15)
 【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

下記式を有するアルミニウム-ジルコニウム-グリシン塩

(I) $A l_n Z r (O H)_{(3n+4-x)} Y_x (A A)_q (R)_p$

(式中、“n”は 2.0 ~ 10.0 であり、好ましくは 3 ~ 8 であり、

“x”は 1.4 ~ 12.3 であり、0.9 : 1 ~ 2.1 : 1 の金属 : 陰イオン比から計算され、

“Y”は Cl、Br、I 及び / 又は NO_3 であり、

“q”は 0.5 ~ 3.0 であり、AA はアミノ酸であり、“R”は少なくとも 2 個の炭素原子及び少なくとも 1 個のヒドロキシ基を有する有機溶媒であり、“p”は 0 ~ 1.5 の値を有する。)

及び下記式を有する塩基性塩化アルミニウム

(II) $A l_2 (O H)_{6-x_1} Y_{x_1} (R)_p$

(式中、Y は Cl、Br、I 及び / 又は NO_3 であり、 x_1 は 0 よりも大きく 6 以下 (すなわち、 $0 < x_1 \leq 6$) であり、“R”は少なくとも 2 個の炭素原子及び少なくとも 1 個のヒドロキシ基を有する有機溶媒であり、“p”は 0 ~ 1.5 の値を有する。)

及び (III) 亜鉛及び / 又は錫と組み合わせたアルミニウム及びアルミニウム-ジルコニウム塩から選択される約 70 重量% ~ 約 98 重量%の発汗抑制活性剤、

及び少なくとも 3 個 ~ 約 12 個の炭素原子及び少なくとも 3 個のヒドロキシ基を有する約 2 重量% ~ 約 30 重量%の多価アルコールを含み、約 2% ~ 約 70% の多価アルコールが発汗抑制剤塩中に存在する金属と複合体を形成する皮膚に優しい発汗抑制剤組成物。

【請求項 2】

発汗抑制活性剤が式 (I) のものから選択され、多価アルコールがグリセリン、ジグリセロール及びそれらの混合物から選択される請求項 1 に記載の発汗抑制剤組成物。

【請求項 3】

多価アルコールがグリセリンである請求項 1 に記載の発汗抑制剤組成物。

【請求項 4】

発汗抑制活性剤が式 II のものであり、多価アルコールがグリセリン、ジグリセロール及びそれらの混合物から選択される請求項 1 に記載の発汗抑制剤組成物。

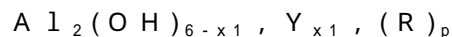
【請求項 5】

多価アルコールが酒石酸、リンゴ酸、2 ヒドロキシオクタン酸、2 ヒドロキシデカン酸、サリチル酸から選択される ヒドロキシ酸と併用するグリセリンである請求項 1 に記載の発汗抑制剤組成物。

【請求項 6】

以下の工程を含む、約 70 ～ 約 98 重量%の発汗抑制活性剤及び少なくとも 3 個の炭素原子及び少なくとも 3 個のヒドロキシ基を有する約 2 ～ 約 30 重量%の多価アルコールを含む皮膚にやさしい発汗抑制剤組成物であって、約 2 ～ 約 70 %の多価アルコールが発汗抑制活性剤と複合体を形成する前記組成物の調製方法：

・下記一般式を有する塩基性アルミニウム塩と、



(式中、Y は Cl、Br、I 及び NO₃ から選択され、

x₁ は 0 よりも大きく 6 以下であり、

R は少なくとも 2 個の炭素原子及び少なくとも 1 個のヒドロキシ基を有する多価アルコールであり、

p は約 0 ～ 約 1.5 の値を有する)

少なくとも 3 個の炭素原子及び少なくとも 3 個のヒドロキシ基を有する多価アルコールとを、

室温から約 105 の温度範囲で混合する工程と、

・反応混合物を室温に冷却する工程と、

・冷却した反応混合物と、室温から約還流温度の温度でアミノ酸及びその混合物から選択される反応物と混合した約 2 : 1 ～ 約 0.8 : 1 の塩化物：ジルコニウム比を有するジルコニウムヒドロキシクロリドグリシナート溶液とを混合する工程と、

・反応混合物を室温に冷却する工程。

【請求項 7】

反応混合物が乾燥している請求項 6 に記載の方法。

【請求項 8】

前記一般式の Y がクロリドである請求項 6 に記載の方法。

【請求項 9】

アミノ酸反応物がグリシンである請求項 6 に記載の方法。

【請求項 10】

反応混合物の還流の際に多価アルコールをジルコニウムヒドロキシクロリドグリシナート溶液に加える請求項 6 に記載の方法。